

西の湖で肥育した親貝を放流した試験区周辺でのセタシジミ資源状況

井戸本純一・太田滋規・竹岡昇一郎（（公財）滋賀県水産振興協会）

1. 目 的

西の湖に垂下して肥育した親貝を放流した琵琶湖の試験漁場におけるセタシジミの資源状況を調査した。

2. 方 法

琵琶湖東岸（彦根市松原町地先）のシジミ漁場内（水深約 5m）に 30m 四方の試験区（親貝保護区画）を設け、西の湖で肥育した親貝を 2015 年 5 月 19 日に 213kg、2016 年 5 月 12 日に 233kg 放流した。2017 年 3 月 23 日に調査用定量桁網（採取幅 8cm、袋網の目開き 10mm）を用いて採集調査を実施した。調査では試験区を中心とする放射状にそれぞれ 200m をめどに直線的な曳網を行い、GPS の記録から有効な距離を算定した。

3. 結 果

1 m²あたりの採集結果を漁獲制限がかかる殻長 18mm で分けて表 1 に、殻長 18mm 未満の分布状況を図 1 に示した。また、当漁場において同じ方法で水深別に毎月実施しているモニタリングの直近の結果をあわせて示した。漁獲サイズである殻長 18mm 以上は、試験区の北西で比較的多かったものの、おおむね 1 個/m²以下と少なかった。殻長 18mm 未満の小型貝は北西で 8.14 個/m²と多く、北と西も 4 個/m²以上と比較的多かった。モニタリングの結果では、漁場の中心で操業頻度が高い 5m 線上において漁獲サイズが少ない一方、小型貝は 6.29 個/m²と多かった。

漁獲サイズ（大型貝）に対する小型貝の採集個数の比率（小／大）は北～北東および西で 5.5 以上と高かったが、北東は大小ともに採集個数が著しく少なかった。一方、北西は採集個数が大小ともに多かったために比率は 4.2 とやや低かった。モニタリングでは 5m 線

上で比率が 17.9 と著しく高く、10m 線上でも 5.5 と比較的高かった。

以上の結果から、試験区周辺における小型貝の比率の上昇は試験区内の親貝に由来する仔稚貝の分散によるものである可能性があると考えられた。

表 1 松原試験区周辺におけるセタシジミの殻長別資源密度（採集個数/m²）

方角	18mm以上	18mm未満	合計	小／大
北	0.73	4.15	4.88	5.7
北東	0.10	0.54	0.64	5.5
東	1.21	3.40	4.61	2.8
南東	0.63	2.86	3.49	4.5
南	1.10	4.01	5.11	3.6
南西	0.56	2.72	3.29	4.9
西	0.74	4.25	4.98	5.8
北西	1.93	8.14	10.07	4.2
水試モニタリング定線（2017.4.7）				
15m	0.73	0.88	1.62	1.2
10m	0.81	4.44	5.25	5.5
5m	0.35	6.29	6.64	17.9
4.5m	0.84	2.57	3.42	3.0

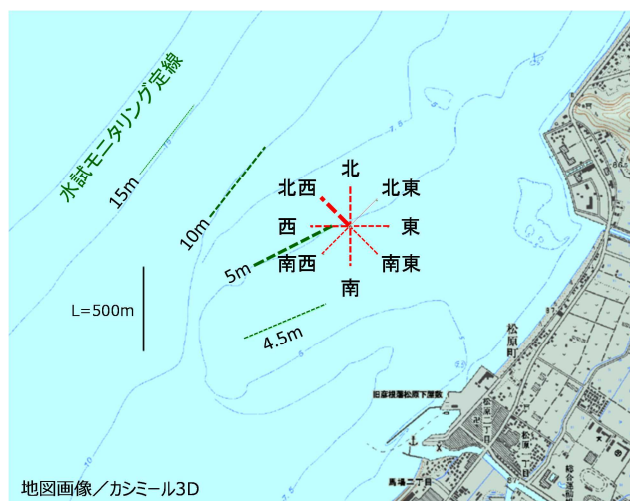


図 1 松原試験区周辺の各測線（破線）と殻長 18mm 未満のセタシジミの分布状況（線の太さが資源密度に比例）。

本研究は平成 28 年度二枚貝資源緊急増殖対策事業（水産庁）を実施する（公財）滋賀県水産振興協会と共同で行った。